

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (南伊勢町) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 9 月 14 日 (水) 13 時 15 分～14 時 15 分

2. 対談場所

ふれあいセンターなんとう 1 階 ホール
(度会郡南伊勢町村山 1 1 3 2 - 1)

3. 対談市町名

南伊勢町 (南伊勢町長 小山 巧)

4. 対談項目

- 1 国道 260 号の整備について
- 2 ポストサミットとしてのナショナルパーク等の好機を活かしたインバウンド対策について
- 3 児童相談所の体制の充実 (児童家庭相談機能の強化) について
- 4 南伊勢高校南勢校舎の活性化について

5. 会議録

(1) あいさつ

知 事

皆さん、こんにちは。今日は、大変お忙しい中、たくさんの皆さんにお集まりいただきまして感謝申し上げます。小山町長にもお忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございます。

この 1 対 1 対談、6 回目になりますが、南伊勢町において、小山町長からいつも大変重要な有意義なお話をいただいておりますので、きょうも限られた時間ですが、有意義に過ごしていきたいと思っております。

まずは、5 月 26 日 27 日に行われました伊勢志摩サミットにおきましては、南伊勢町の皆さんに多大なご援助をいただきまして、改めて感謝申し上げます。おかげさまで無事故、大成功で終わりました。南伊勢町の皆さんには、クリーンアップ活動などでさまざまな清掃活動、花いっぱい運動などで植樹やプランターをつくっていただくなど、たくさんお世話になりました。あわせて食材も国際メディアセンターにおきましては、マグロとか真鯛も使われましたし、首脳のカクテルやコーヒーブレイクにおいては、五ヶ所みかんも使われたということで、皆さんにもお支えいただいたのサミットでした。

このサミットの後も大学生版のサミットみたいなのをやったおりには、

南伊勢町にもたくさんの皆さんが来ていただいて、そのおもてなしでお世話になりました。本当に皆さんにお世話になったことを改めて感謝を申し上げたいと思います。

これから、その次に向かって大変重要な時期でありますから、南伊勢町と連携をして進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

今日は、どうもありがとうございます。

南伊勢町長

皆さん、こんにちは。また、知事には大変お忙しい中、南伊勢町までおいでをいただきまして、本当にありがとうございます。

今から1時間、本当に忙しい知事が、南伊勢町のことを1時間、一緒に考えて話していただける。本当にありがたいことだと思います。

こういう中で、我々南伊勢町としまして、いろんな課題がありますが、その中で4点だけ、知事をお願いなり、また、いろんなご意見をお聞かせいただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。今日は、本当にお忙しい中、ありがとうございます。

(2) 対 談

1 国道 260 号の整備について

南伊勢町長

この国道 260 号については、いろんな要望とかお願いを毎年この1対1対談でさせていただいております。国道 260 号は、志摩市から始まって、南伊勢町、紀北町を通過して国道 42 号へとつながっており、ちょうど 108 キロぐらいあります。そのうちのほぼ半分が南伊勢町を通過しており、南伊勢町にとって、この国道 260 号は、南伊勢町の中の東西に通じるたった一本の道路であり、我々町民の生活、産業の全部に関わっています。そして、南伊勢町民なら、この国道 260 号を通ったことがないという人はいないという、大切な大切な道です。この道には、まだまだ通りづらいところが結構ありまして、その整備をどんどん県のほうで進めていただいております。ここ数年、この建設工事が急ピッチで進んでいまして、一昨年からかなり成果が出てまいりました。

まず、国の方の直轄事業ですが、平成 27 年の 2 月 15 日には錦峠が開通しました。ヘアピンカーブがあって、大型トレーラーは本当に危なかったのですが、それがすばらしい道にいただいたので、通れるようになりました。

そして、志摩市との境の宿浦と木谷間ですが、この区間は従来からの海

岸線を通った細い道路で、大型車は通れず、スクールバスも通れないような道でした。これが今年の3月30日に開通していただきまして、無事、すばらしい道路になりました。今まで宿浦、田曾浦の子どもたちは、スクールバスが浜島町内を通らせていただいて学校へ通学していたのですが、この道路ができたことにより、町内を通して通学できるようになりました。

そういうことで、どんどん整備を進めていただいて、現在は、南島バイパスでは、贅浦から東宮までの工事をしていただいており、この年度末までに開通していただきますと、今は海岸堤防沿いの道の狭いところでは大型車とすれ違うのは非常に厳しく、贅浦の方々は大変な思いをしていますが、安全に前の道を通っていただけようになります。

ただ、あと、一つ、二つ問題がありますが、今回、特にお願いして何とか前へ進めていただきたいのは、通称三ツ坂峠と言っています東宮・河内間のことです。この場所については、皆さんご存じのように東宮から最初の峠までにトンネルが3つありますが、トンネルまでの間がすごく細かいカーブで大型車と普通車が対向しづらく、大型車同士では本当に危ないというような場面があります。そして、平成19年に崩落しましたが、急峻な法面ですので、いつ崩落するかわかりません。雨の多い地域ですので、こういう崩落は常に危険性がありますし、また、南海トラフの地震がおこれば崩落する危険があります。

そして、この3つのトンネルは、最近の大きい車はセンターラインを踏んでいかないとトンネルが渡れないという状況です。トンネルの中ですれ違うと本当に大変ですので、何とか解消したいと思っています。

この道の近くに南島中学校があります。吉津地区と島津地区の子どもたちがここへスクールバスで通学していますが、もし、法面が崩落して通れなくなると、国道42号まで出て通学しないといけなくなります。この道を通れば10分少々ですが、国道42号経由だと2時間かかります。何とかそういう問題が生じないうちに、この区間の改良をお願いしたいと思います。

これは防災関係ですが、この近くに奈屋浦の漁港があります。奈屋浦の漁港というのは、日本の中でトップ10に入るような水揚げ量がある漁港です。ここにも南海トラフの地震津波が起こって大きな津波の災害があったとしても、この漁港をすぐにきちんと復興して魚を獲って水揚げし、その水揚げをしたものをいろんな地域に供給できるための、災害があっても事業を続けることができるというようなBCPというものですが、その事業の継続計画を国が去年と今年でつくってくれています。これは、全国で神奈川県と和歌山県と三重県にある3つの漁港でモデル的に実施されているものです。そういう大きな漁港である奈屋浦の漁港で水揚げされたものを大都市に供給するには紀勢自動車道を通らないと難しいのですが、紀

勢大内山インターへ行くためには、大きいトラックがこの道路を通っていただく必要があります。錦峠のところは、本当に立派に開通していただきました。その効果を出すためにも、ここを大型トラックが通れるようにしてほしいとお願いしてきましたが、県のほうで今年からこの区間の検討をしていただけるという話を聞いていますので、そこのところを知事にもう少しお聞かせいただければという期待をしております。

そういうことで、国道 260 号、あと船越地区は改良が遅れていたところで、子どもたちの通学路と大型バスやトラックが通るところが一緒になっていますので、ここは非常に危険な区域になっています。南伊勢町は子どもが本当に少ないのですが、その子どもたちの安全のためにも、ここも改良をお願いしてきたところですが、もう少し海側のほうでバイパスで工事をしていただけることになって、今、用地測量とか家屋の移転などをやっ

ていただいています。ここ数年、本当に何カ所も急ピッチで県のほうで進めていただいています。国の公共事業予算は多いときの 3 分の 1 ぐらいになっています。そういう中で、この南伊勢町をしっかりと進めていただけるというのは、本当にありがたいことで、あまり多くの期待で申し訳ないような気もしますが、この南伊勢町にとってたった一本の大切な道ということで、よろしく願いしたいと思います。

知 事

ありがとうございます。今回、6 回目の 1 対 1 対談と申し上げましたが、国道 260 号の件は、毎年、小山町長からおっしゃっていただいています。整備の必要性とその年々の財政の状況などをみて整備箇所を決めていくわけですが、全ての箇所ができないので、やはりいろんな優先度合いを決めていかないといけないときに、町長みずからこういうところが町として優先だと言っていたことは、いつも当然満額回答はできないわけですが、大変ありがたく思っています。

2 点あったうちの 1 つの東宮から河内間のところにつきましては、おっしゃっていただいたとおり、本当に幅が狭いトンネルとか急カーブがあって、大型車の安全通行に支障をきたしていることは我々も十分認識をしています。

とはいえ、全体延長が 4.2 キロと長いので、区間を区切って整備を進めるようにしています。今年度は、特に幅員が狭くて急カーブが多い東宮橋から東宮坂隧道までの区間において、工事着手に向けて改良箇所の概略設計と東宮橋の予備設計を予定しています。こういう形で少しずつでも進めていき、とりわけ、そういう難しいところから、必要性が高いところから

取り掛かっていこうという形でさせていただいています。

それから、船越工区のほうは、道路計画を策定していくわけですが、南伊勢町と協議しながら、想定される津波の高さを上回る道路の高さにしようということと、道路の法面をコンクリートで被せて、津波や地震に強い構造になるように計画をさせていただいています。

今年度は、その構造物の設計とか用地測量を実施させていただく予定でありますので、ご理解を賜ればと思います。

それから、この工区は、いわゆるバイパス事業というものなので、工事着手するときには、全区間の用地取得が必要となっておりますので、どこか用地の取得が整ったところから着手するのではなく、バイパス事業で全部の用地がOKにならないと、進めていくことはできません。用地の取得において、南伊勢町や地元の皆さんのご協力が欠かせませんので、ぜひ、ご協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

南伊勢町長

ありがとうございます。用地買収につきましては、三ツ坂峠のほうも船越工区のほうも町として全部回ってやりますので、どうぞよろしくお願い致します。本当にありがとうございます。三ツ坂峠のほうは概略設計をさせていただいて、これから検討していただき、何とかそういう工事に入っていけるという可能性がでてきましたので、本当にありがとうございます。

2 ポストサミットとしてのナショナルパーク等の好機を活かしたインバウンド対策について

南伊勢町長

2つ目をお願いします。先日の伊勢志摩サミットは、今までのサミットの中でも一番安全が確保されて開催された素晴らしいサミットということで、いろいろ評価もお聞きしますし、知事と一緒に開催後のお礼に官邸に行かせていただいたときには、すごくよかったという評価をいただいたと思います。知事の肝いりで進めていただいた本当に素晴らしいサミットだったと思います。

そういう中で南伊勢町、先ほど知事からも紹介いただきましたが、いくつかの取組をさせていただきました。伊勢市、鳥羽市、志摩市がメインですが、伊勢志摩サミットということで、南伊勢町もその区域に入れていただきました。

ただ、南伊勢町は、首脳とか配偶者の方々が直接来ていただけるような施設もありませんでしたし、そういう機会もなかったもので、3市ほどは華々

しい感じはなかったのですが、サミットということが町民にとって、特に子どもたちにとってはインパクトが大きかったと思います。

特に、今までそういうG7、大きい国も含め外国との距離感についてあまり考えていなかった子どもたちが、サミット給食でいろんな国の給食をいただきながら、その国のことについて学びました。そして、いろんな行事に参加させていただいたことは、子どもの将来、子どもへのインパクトを考えると、本当に南伊勢町にはありがたかったと思っています。このサミット給食は、南伊勢町が一番充実して取り組んでいただいたということで、本当にありがたかったと思います。

また、子どもたちが花いっぱい運動で公共施設や自分たちの学校にプランター置いたりすることにも関わってくれましたし、クリーンアップ作戦においては、南伊勢町では2,000人を超える方々に参加していただきました。町内全区が参加していただいてきれいにさせていただきましたし、また、ここにさくら活動隊とありますが、建設事業者の方々が、首脳が通る道ではなく、一般の方が通る道の本を切って本当に景観をよくしていただきました。皆さんもボランティアでサミットのためにご活躍いただいたということで、本当に町としても一つになれてよかった大会だと思います。

また、のぼり旗を立てるなど、いろんなことが経験できました。賢島で、この伊勢志摩で首脳が世界のことについて話し合われたということは、伊勢志摩地域に入っている我々としても名誉なことだと考えています。

ただ、これをサミットよかったな、で終わるのではなくて、伊勢市、鳥羽市、志摩市へ回るお客さんもかなり来ていますので、そういうことをさらに南伊勢町はどういうふうにこれから生かしていくかという可能性などについて、もっともっと我々は考えていかないといけないと考えています。

そこで、先ほど知事もお話いただきましたが、この8月31日から9月3日の間に、大学生国際会議が実施され、南伊勢町にもおこしいいただきました。首都圏の大学生と留学生が多かったのですが、県内の大学生も来てくれました。80名ほど来ていただいて、いろんな取り組み、伊勢市では神宮関係の施設を回って、そして、地方創生について議論していただきました。南伊勢町では、地場産業とグローバル化、これからの一次産業は世界に向けてどういうふうに産業を振興していくかという根本的な問題をいろいろ話し合ってくれました。学生たちが6つの班にわかれてミカンのいろんな作業とか干物をつくる作業、あるいはスナックエンドウのハウスの中での種まき、また、アサリの稚貝を採るための作業、そして、獣害対策として恒久柵の設置などの作業をしてもらいました。

そして、お迎えした海ぼうずでは、地元の相賀浦の方々と一緒に別名で富が来る旗「富来旗（ふらいき）」とも言う大漁旗を10班に分かれ、絵の

具を使って絵を描き、自分たちの大漁旗をつくるという取組をしてもらいました。地域の方々と学生たちがふれ合えた素晴らしい機会となり、それは双方ともに、我々もよかったし、学生たちもよかったようです。そういう取組を今後も続けていただけるものと思っています。県の力があって、こういうこともできましたが、知事にサミットの遺産をこれからどういうふうに県は生かしていこうとされているのか、また、町としても一緒にやれることはどういうことなのかということをお聞かせいただければありがたいと思います。

今年は、伊勢志摩国立公園指定 70 周年記念の年です。伊勢志摩国立公園というのは、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町にあります。この中で特別地域は 17,509 ヘクタールですが、そのうち、当町は 5,040 ヘクタール、3 分の 1 近くあります。この伊勢志摩の中でリアス海岸というのは、南伊勢町もそうですが、非常にすばらしい海岸風景でありますし、この中で人々が生活して、漁村文化というものが、この伊勢志摩国立公園の中で行われています。国立公園というのは、結構山の中とかそういうところが多くて、人があまり入ってないところですが、人がいっぱい生活している国立公園は伊勢志摩国立公園だけです。32 ある国立公園の中で、そういうところが特徴になっています。南島地区の見江島とか弁天島は、特別保護地区となっていますが、島や半島で特別保護地区となっている地域は伊勢志摩国立公園内では南伊勢町だけで、他にはありません。そういう特別、自然景観が優れたところ、動植物の豊かなところ、そういうのが南伊勢町にあるので、これをいかにこれからの観光産業に生かしていくのかということが大事です。

このたび、国がナショナルパークを選定しましたが、かなり頑張っていたただかないと難しいと思っていたところ、32 の国立公園のうち 8 カ所が選定され、その中の一つとして伊勢志摩国立公園が選ばれました。阿寒国立公園や沖縄の慶良間諸島国立公園など選定された 8 つの国立公園は、ナショナルパークとして、これからのいろんな整備がされていくということです。

ナショナルパークといいますと、外国では本当に大事な自然のある場所ですが、日本のナショナルパークとなるのは、自然景観だけではなく、人が暮らしているところ、ですから、我々は、このすばらしい自然景観と、そして、我々が暮らしている生活文化、歴史や文化を生かして、これからナショナルパークとして日本国内、また、国外からも人が来ていただける、そんな場所にしていきたいと思っています。

国では、いろんなプログラムを組んで、外国から今、観光客がもっともっと増えるようにナショナルパークを選定して、そういうところをもっと整備していこうということで進めていただいています。今から知恵を出し

てやっていきますが、ここについても知事は非常に思い入れが強いところだと思しますので、そのところを聞かせていただきたいと思しますので、どうぞよろしくをお願いします。

知 事

ありがとうございます。まず、今、町長からは、サミットを今後どう生かしていくのかというお話と、伊勢志摩国立公園をどうしていのかという2点についてお話をいただきました。

1つ目の伊勢志摩サミットの後、どうするかということについてですが、先ほど町長もおっしゃっていただいたサミット給食を三重県の中で一番たくさんやっていたのが南伊勢町でした。子どもたちに理解をってもらうということや、知る機会をつくってあげることは、何においても大事なことだと思えます。

こういうエピソードを紹介します。サミットの当日は皆さんもテレビなどでご覧になられたと思いますが、伊勢神宮へ行きました。伊勢神宮では、G7の首脳7人とEUの方の2人と私の10人で神宮杉の植樹をさせていただきました。その植樹に使うスコップを首脳に渡すのを南伊勢町、大紀町、度会町、玉城町、伊勢市、鳥羽市、志摩市の7つの市町の20人の小学校5、6年生の子どもたちが手伝ってくれました。そのスコップを渡しているときに、オバマ大統領やメルケル首相に子どもたちは話しかけられているわけです。短い言葉でしたが、何を話しかけられているのかと思えました。

どうですか皆さん、小学生と会ったときに、最初、何と話しかけますか。首脳たちはその子たちが小学校5、6年生と知りません。知っているのは私だけです。何年生ですかとか、南伊勢町の子とわかっていたら、どこの小学校なのというふうに聞きませんか。そういうようなことを聞くことが多いと思えます。でも、その首脳たちは、安倍さんが何を聞かれたか知りませんが、ほかの皆さんは、大体、「What your name?」「あなたの名前は何ですか。」と聞いたわけです。

これ、大きな違いなのです。つまり日本人の私たちは、そういう属性、学年、学校、年齢、その人がどういうところに属しているかとか、そういうことを聞いてしまうわけです。でも、今回、その首脳たちは子どもたちに名前を聞いてくれたのです。子どもたちの個性の一番最初である名前を聞いてくれたということで、子どもたちはすごく喜んでいるわけです。

あるいは、県立相可高校の子どもたちが配偶者プログラムの中で三重県の食材を使って料理を配偶者の皆さんに振る舞ってくれました。

今回のサミットでは、こういう活動を通して子どもたち、次世代の人た

ちにたくさんチャンスが生まれたことをうれしく思っています。その植樹を手伝った女の子や男の子たちは、そのことが、明日何かの役に立つことはないと思います。

ちなみに、三重県の前にサミットが行われた洞爺湖、北海道。そこで当時、植樹を手伝った小学生の女の子は、8年後、洞爺湖町役場へ入庁しました。それは、サミットの植樹を手伝った、自分たちの地域のことを好きになったから、もっと自分たちの地域を世界に知ってほしいから、私は洞爺湖町役場に入りましたと言ってくれたんですね。

やっぱり次世代への投資、次世代への取組とはそういうことなのだと思います。サミットのこと、明日すぐに次世代に何か生きるということはないでしょう。でも、この地域をつくるのも、県をつくるのも、国をつくるのも人なのです。そういう子どもたちにチャンスが生まれたことを大変うれしく思いますので、三重県としては、ポストサミット、サミットの後、何をするのかという、それは次世代の子どもたちに英語を勉強する環境や国際理解をする環境、そして、今回、南伊勢町で実施した大学生国際会議のような議論をしたり、みんなで何かをつくりあげていくような環境とかをたくさんつくっていくのが一番大事な柱の一つだと思います。

もう1つは、サミットで知名度が上がりました。世界最高峰の会議を行いましたから、いろんな会議などを三重県で開催してもらって、言わばサミットの聖地みたいな場所にしていきたいと思っています。

例えば、今日、記者会見で発表しましたが、南伊勢町でも積極的に取り組んでもらっている農福連携、障がい者の皆さんが農業をするようなことですが、この農福連携に関して全国の人たちが参加する会議を全国で初めて「農福連携サミット」として11月30日に行います。

その他、10月14、15日だと思いますが、「認知症サミット」を開催します。認知症については、世界中の人たちが困っているのです。そういうような人たちがどういう状況なのか、どういう政策がいいのか、どういう技術がいいのか、どういう医療がいいのか、そういうことを話し合うサミットを実施します。このように、〇〇サミット、みんなが集うような場の代表的な場所と三重県がなるよう取り組んでいきたいと思っています。

それから、「食と観光」というのが、今回、たくさん注目を浴びました。観光などでたくさんの人に来てもらいたいと思います。実際、サミットの翌月の6月は、観光の宿泊客数が前年と比べて9.3%、大体10%ぐらい増えています。全国平均はマイナス1.2%です。全国は減っています。あと、愛知県、岐阜県、静岡県と三重県の東海4県でも三重県以外は減っているか微増です。三重県が特に多くなっているというように、たくさん来ていただいています。でも、まだら模様であるのは事実ですので、観光に力を

入れていきたいと思います。

それから、食に関しては、昨日も台湾で三重県の食の事業者の食材を台湾のレストラン、ホテルで使ってもらうような商談会を持ちました。75件の商談が今、継続しています。そういうところでどんどん売っていったらいいと思います。尾鷲からは台湾にブリとか行っていますから、そういう南伊勢町のいい水産物なども出して行って、皆さんの仕事を支えていくような形でやっていきたいと思っています。

そして、伊勢志摩国立公園に関してですが、世界では、グランドキャニオンとか、エアーズロックというオーストラリアの大きい岩がある場所とかが国立公園、ナショナルパークになっています。要は、我々が例えばアメリカに行ったらグランドキャニオンへ、オーストラリアへ行ったらエアーズロックへ行くみたいに、外国人が来日したときの行き先として、国立公園をどんどん行きたくなるような場所にしましょうというのがナショナルパーク化ということなのです。伊勢志摩国立公園をこれから更に外国人の方が来やすいような、観光して楽しい場所にしていきましょうという取組です。

そのためには、表示を変えたり、Wi-Fiをつけたり、道路を整備したり、カフェをつくってみたり、そういうようなことが必要です。国立公園ですから保存をしてきれいな状態を維持しなければなりません。行政だけではできませんから、地域の皆さんのご協力を得ないといけません。

伊勢志摩国立公園は、民有地比率、個人の人とか企業とか民間で持っている比率が96%で、ほとんどが民有地です。日本の国立公園の平均は33%ですから、いかにこの伊勢志摩国立公園が人が住んでいて、人と自然が共生している場所かということです。だから、私たち人の手で一定程度きれいにしながら、来ていただきやすい環境をつくっていかねばなりません。そういう意味で、皆さんに今、申し上げたような、バリアフリーにしたり、表示を変えたり、Wi-Fiをつくったり、おもてなしをしたり、カフェをつくったり、いろんなそういうことで皆さんにお手伝いをいただかないといけませんので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

今、自然体験というのは、五ヶ所のシーカヤックみたいなものもそうですし、非常に人気南伊勢町では出てきておりますので、ぜひ、そういう自然をアピールして、この南伊勢町にたくさんの方が来てもらえるようにしていければと思うところであります。

南伊勢町長

ありがとうございます。すばらしい自然と、その中で共生しているということで、すばらしい自然をうまく残しながら、よりよく整備していきな

がら、その中で一緒に生きる漁村文化の中の産業も含めて、観光商品がうまくできたらと思います。またいろいろご指導いただきたいと思います。

3 児童相談所の体制の充実（児童家庭相談機能の強化）について

南伊勢町長

3つ目の項目です。これは児童相談所の関係です。児童相談所というより、子どものこれからの未来をどうつくっていくかということですが、南伊勢町は0歳から中学生までの子どもは少なく、現在742人です。その中で要保護児童地域対策協議会が支援対象としている子どもたちは28名ほどで、4%となっています、この子どもたちは、すぐさま、命の危険とかはないのですが、子ども・家庭に関する相談ということで、虐待の問題や非行、不登校、保護者の方の病気、家庭の環境など、いろいろな育児不安の背景がありますが、その中には、いろいろな複合的な問題がある相談がかなりあります。このことに対しては、町民の生活がすぐにわかる町が一生懸命に対応していますし、きめ細やかに町が対応するというのは大事なことで、重篤な問題に発展する前の初期段階、早い段階から対応する必要があります。現在、このように警察、学校、医療機関、保育所、住民、子育て支援センター、こういうところが相談とか通告とかいただいて、県の児童相談所と市町、役場が一緒に対応するのですが、そういう中で、大きな問題になってしまったときにその場の対処はできても、後々、子どもの将来に残す問題とか、いつまでもいつまでも尾を引く恐れがありますので、できるだけ早く対応することが、その子どもの将来にとって欠かせないことです。何か起これば、役場はすぐ現場に飛んでいくのですが、そのときの対応はできますが、その問題が、将来どのような問題が生じることにつながるのか、どういうことをやっておかないといけないかということ判断することは難しいので、専門的な知識を持つ、児童の心理判定員とか、そういう方々の判断、支援を一緒にいただいて役場の職員が回っています。

南伊勢町の場合は、どうしても職員数が少ないという事情もあり、事務職員、行政職員が対応していますが、県の場合は専門の職員が配置されています。しかし、県も非常に忙しくて、そして厳しい中で専門の方がかなり少なくなっているんじゃないかということで、かなり大きい問題に発展していかないと、対応していただくことが難しくなっていて、最初に本当に相談したいときに相談ができないことがあるようです。

人事のことですので、すぐさま対応というのは非常に難しいということも私もよくわかるのですが、将来に向けて、南伊勢町、子どもが1万3000

人弱の人口の中で年間 50 人前後しか生まれません。ですから、そういう中では、一人ひとりの子どもをいかに大切に育てていくか、何か問題を抱えている子どもについては、家庭的な問題とかいろんな複合問題をちよつとずつ紐解いてよくしていくために、専門の方の判断をいただいて、将来をどういうふうに進めていくかということをやりたいと思いますので、ぜひ、これからのご検討ということで、そういう専門の方をもう少し配置していただけるとありがたいと思いますので、よろしくをお願いします。

知 事

ありがとうございます。県には児童相談所という組織がありますが、平成 22 年度は、児童相談所の職員が 92 名でしたが、今年度は 113 名で、6 年間で 21 名増やしています。極端に言いますと、三重県庁の組織で職員の定数が増えているのは、警察と児童相談所だけです。もちろんプロジェクトで伊勢志摩サミットをやるので、そちらへ何人か配置替えすることはありますが、ずっとある課題で増えているのは、この 2 つだけです。

その背景に何があるかといいますと、まず一つは、僕が知事になって 2 年目のときでしたが、平成 24 年に、桑名と四日市でゼロ歳児の子が、これはネグレクト、育児放棄するような児童虐待で乳児が死亡した事例が 2 件ありました。そういうことがあって、平成 25 年度から児童相談所に現役の警察官も入ってもらったり、弁護士の方にも非常勤で来てもらったりというように、体制を整えてやってきました。平成 24 年のときに、関係機関の連携と一時保護が的確にできなかったということがあり、それで命が奪われたかもしれないので、一時保護を的確に実施するため、人の裁量ではなく、基準に合致すれば一時保護するというアセスメントシートを全国で初めてつくりました。アセスメントシートには、チェックポイントが 30 個ぐらいありますが、そのうち、3 個が基準に該当したら必ず一時保護することにしています。

そのような形で専門性を高めながらやっていますが、この 5 月に児童福祉法が改正されて、初めて子どもの権利というのがその法律に書かれました。子どもがどうなのか、というのが一番大事だということになっています。児童相談所は基本的に専門的な部分を担い、市町が児童相談の一義的窓口なので、在宅支援などについては、市町でしっかりやってほしいというのが改正児童福祉法の趣旨です。そういう役割分担を前提としつつも、先ほど町長がおっしゃっていただいたように、こういう虐待とか家族支援は、早期発見、早期対処が基本ですから、日ごろからしっかりと連携をしていきたいと思います。家族が分離してから家族を再統合するのはとても大変ですので、家族が分離する前の予兆を見て、ちゃんと家族としてやっ

ていくことができるように支援をすることが基本的に大事なことだと思っています。

先般、私、福岡市に行ったときに、NPOで子どもの村福岡というところがありました。子どもの村というのは、里親をされている5つの家族がその地域に密集して一緒に住んで、子どもたちを育てあったりしています。いろんな研修とかもやったりするというような場所で、その人たちは、さっきの家族が分離してから統合するのではなくて、家族が分離する前に支援していこうというプログラムをつくっていこうという場所などもありました。

基本的には役割分担のもと、県と市町が連携をしながら、早期発見、早期対処に努めていきたいと思っています。

市町においては、専門的な部分での相談はもちろん県も一緒に対応しますが、日ごろから家族や子どもたちを見るという努力をぜひお願いしたいです。

赤ちゃん訪問という、赤ちゃんが産まれたら、その家庭を全戸訪問をして、お母さんと子どもあるいはお父さんがどんな状況か、赤ちゃんがちゃんと育っていく環境にあるのかを見てくるというのをどこの市町もやっています。訪問する時期は、早ければ早いを超したことはないのですが、南伊勢町は、生後1カ月までの間に赤ちゃん訪問を実施している割合が40%で、県内で一番高いです。南伊勢町は、一番早く子どもたちのもとに赤ちゃん訪問をすることができる自治体ですので、ぜひ、日ごろから子どもたち、家族を支援する、それを行政だけでできなければ、地域の皆さんで見守っていただく、そんな感じにしていきたいと思います。

ちなみに、皆さんもご記憶があると思いますが、この土曜日だったと思いますが、松阪市内のスーパーマーケットの駐車場で生後数日の赤ちゃんが、へその緒もついたまま裸で遺棄されていたというような事案がありました。そのときもそれがわかった瞬間に県の児童相談所の課長を派遣して、その場で対応し、一時保護という形で松阪中央病院に委託をしています。この後、子どもを乳児院でいったん保護することになると思いますが、現在、保護者も捜索中です。そういうようなことなどもやりながらですが、早め早めにやっていくに超したことはありませんので、ぜひやっていきたいですし、児童福祉司という専門の人を平成31年度までに、人口4万人に対し1人配置しなければいけないということで、今よりも更に増やしていく形にしていきたいと思います。

基本的には、町長がおっしゃっていただいた早め早めの対応のために役割分担をしながらも、連携をしていくということですので、よろしく願いしたいと思います。

南伊勢町長

ありがとうございます。知事のそういうご認識をお聞きして、本当に安心しています。現場をよくわかっている町と、そして、専門的知識をもっている県が連携をしていきながら、しっかりとやっていきたいと思えます。ありがとうございます。

4 南伊勢高校南勢校舎の活性化について

南伊勢町長

最後の項目です。サミットのところで、知事が次世代に生かしていくことが大切だという考えをお聞きしましたが、今、地方創生のプロジェクト、加速化交付金のプロジェクトの一つですが、若者定住プロジェクトに取り組んでいます。若い人の定着が非常に厳しくなっている南伊勢町で、若い人にいかに定着してもらうかということで、小中学校、高校、そして大学、小中高大連携の中で、次世代を担う子どもにどう投資をしていくか、そして、その子どもたちがいかにふるさとに帰って来てもらうか、あるいは、もっともっとふるさとに住んでふるさとを良くしてもらうということが大切だということで、今、子どもたちへの投資をしようということで取り組んでいます。

小中学校につきましては、ふるさと教育をしっかりするというので、商工会で作成していただいた「あばばいっ南伊勢」、これは本当にすばらしい南伊勢の文化や人の生活、自然も含んでおりますので、これも活用させていただいて、ふるさとの良いところを子どもたちに知ってもらおうと考えています。そして、将来、外に出てふるさとを自慢できる子どもたちにしたいなと思っています。

それとともに、南伊勢高校南勢校舎ですが、非常に地元で生まれる子どもが少ないものですから、当然、地元の高校に進学する子どもは少なくなります。それで、今、入学者も少なく厳しい状況ですが、小さい学校であるがゆえに、地元の方々もこの学校のことを心配してくださって、そして、学校にいろんな思いを持って、学校づくりに協力していただいています。

そして、今、南伊勢高校南勢校舎では、子どもたちが希望のところに就職できるように、そしてまた、進学できるようにということで、そういう面も一生懸命支援をさせていただいています。就職については、就職支援相談員を町で任命し、県の教育委員会の職員にも併任していただいて、高校に籍を置いて、マンツーマンで子どもたちの希望がかなうような就職先を一緒に探したり、就職時の指導を行っています。ですから、かなり就職

実績が上がってきて、希望のところに就職できるようになっています。

もう一つ、進学の方ですが、まだまだ国立大学へいつでもというわけにはいきませんが、この南伊勢高校から人数は少なくとも希望する子が国立大学へ行けるような状況をつくっていきたいと町でも考えておまして、その支援を始めつつあります。また、来年度からもっとしっかりやっていきたいと思います。

現在、南伊勢高校南勢校舎、ソーシャル・ビジネス・プロジェクト「SBP」を実施している高校としても知られておりますし、去年は、吉本興業とコラボして子どもたちが「南伊勢高校×よしもとふるさと劇団」を立ち上げたということなどもあります。子どもたちは、県の支援をいただいて海外留学もさせていただいています。

私もここ数年見ている、SBP、ソーシャル・ビジネス・プロジェクトをやっている子どもたちが非常に成長していつているなど感じます。どういう場面でも大勢の中でも自分の意見をしっかりと言えるようになり、堂々とそれができるようになりました。そして、日々の学校での生活がすごく積極的にいろんなものに取り組んでいくようになったということで、先生方も驚いていますし、私も本当にすばらしい生徒が育つ学校になったと思います。

先日、SBPの全国大会がありました。SBPというのは、高校生レストラン「まごの店」で有名な岸川さんに支援をしていただいたのですが、南伊勢高校で始まった取組です。現在、青森県から沖縄県まで、全国で16校が取り組まれています。そして、その第1回大会が8月19日、20日に伊勢市および南伊勢町で行われました。19日は第1回を南伊勢町で実施しようということで、ここ「ふれあいセンターなんとう」において、全国高校演劇大会で全国1位になった青森中央高校の演劇部に公演をしてもらいました。南伊勢高校南勢校舎のSBPの子どもたちが相可高校の子どもたちと一緒にそういったことを全部プロデュースしてくれました。SBPというのは、地域の課題、南伊勢町の若者がどんどん外へ出てしまう、そういう問題について、その課題をビジネスの手法で解決しようということで、自分たちでもいろんなビジネスがつかれるじゃないかということを考えて、「セレクトギフト」とか、「たいみー焼き」とかそういうものを考案して始めました。本当にすばらしい生徒が育つように、この学校をなんとかもっともっと活性化していきたいと考えています。

「南伊勢高校×よしもとふるさと劇団」については、吉本興業から支援していただき、南伊勢町出身の方がみえるので、その方が座長となってふるさと劇団を立ち上げて、昨年12月に町民文化会館で公演を行いました。そのときに、ステージに上がっている子どもだけでなく、スタッフに回っ

てカフェとかいろんなことをしていてステージに上がらなかった子どもが、その公演を見て、来年はステージに上がりたいということで、一生懸命やっています。お笑い芸人の方の練習はすごく厳しいらしいんです。先生方もすごく勉強になって、あんな厳しく練習するのかなと思ったと言われていました。子どもたちが、その厳しさにしっかり対応して練習をしている中で、生活態度も変わってきて、子どもはやはり変わっていくということで、中学校のときに見ていた先生が、あの子がこんなになったのかというぐらいに成長したというお話を聞きました。

高校のとき、学力を上げることも大事なことです。なんとしても国立を受けられるような学校にするということで、町はその思いで来年度からいろいろと実施したいと思っていますが、そういう中でも人間としての成長力、そして、自分の将来を切り拓いていくような力を高校のときに持たせることが大事ですので、そういう学校をつくっていきたいと思っています。

高校にはいろんな支援も来年に向けて、今検討をしておりますので、小規模校ではありますが、人数も本当に入学者が少ないですが、今は過渡期で徐々に上げていきますので、ぜひ温かい目で見えていただき、ご支援をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

知 事

ありがとうございます。南伊勢高校×よしもとふるさと劇団の公演を皆さん見てもらいましたか。おもしろかったですよね。僕もよしもと好きで、三重県に来てもらったときは、四日市や津や鈴鹿のときは僕も出演しました。そういうみんなが笑顔になるような機会を、子どもたちが主役でつくっているのはすごくいいことですね。そういうことにチャレンジできる環境が地域にあるというのは、本当にすばらしいことだと思っていますので、そういう機会を地域の皆さんが挙げてやっていただいたこと、本当に感謝申し上げたいと思います。

それから、僕、こういう性格なので、あまり人生を後悔したことってないのですが、何個かあります。そのうちの 하나가、留学に行かなかったことで、すごく後悔しています。チャンスがあったり、行ったらどうかということを書いていただいた方もいたんですが、そういう先を見通す力がなかったんだと思います。全然そういうのは興味を持ってなくて行かなかったんです。でも、今、知事としてやらせていただいて、いろんな人とコミュニケーションを取らせていただく中で、もっと話せたらいいのにと思ったりとか、もっと相手の国のこととか理解できるような知識があったらいいのにと思ったりしました。

僕が知事になってから、今まで15人だった高校生の留学の枠を倍にしまして30人にしました。前の15人は、国からの予算を借りているので成績優秀者しか行けないのです。追加した部分は、成績はまあまあでも、志があったり、思いがある子が行けるチャンスを開いてあげようということでやっています。そういう留学枠も増えたりしましたので、南伊勢高校南勢校舎からは、昨年度、フィリピンに短期留学生1名、今年度はシンガポールとマレーシアに海外研修旅行に2名、派遣をさせていただいておりますし、実際に留学に行けなくても、ALT、アシスタント・ランゲッジ・ティーチャーとって、英語などを学校の先生と一緒に補助してくれる外国人の人たちがいるのですが、そういう方を1名、今年度から常駐させています。あと、地域創生アドバンスコース、地域を活性化するためのいろんな先進的なことを学ぶコースを南勢校舎に来年度からつくる予定ですので、そういう形で、地域の皆さんが一生懸命お支えいただいている南伊勢高校南勢校舎から人材が輩出されていくように努力をしていきたいと思っています。

今、県立高校の活性化計画というのをつくっているところです。

基本的には、子どもたちの人口が減少していくと、学校自体、学級自体の人数の規模によって、例えば部活ができなくなるとか、先生の配置ができなくて教科がちゃんと教えられないとか、そういうようなことがありますので、一定の人数が学校としては必要だというのが基本的な認識ですが、地域にとって大事な学校もありますし、人口だけで割りきれない部分もありますので、そこはそういう小規模校のデメリットを解消しつつ、むしろメリットを生かして、地元の市町の皆さんとの連携をした学校になるようにということをベースの考え方として、現在やっています。まさに今、町長がおっしゃっていただいたような形で南勢校舎、小規模校ではありますが、その小規模校のデメリットをなんとか解消しながら、メリットを生かす形で、引き続き、地域の皆さんのお世話になって、いい形で人材育成ができればと思っています。

合わせて、南伊勢町自体の子どもも減っているかもしれませんが、できれば、南勢校舎への進学率を高めていただくと、ありがたい話ですので、地元からも南勢校舎にたくさん入っていただければと思います。南勢校舎では、これだけ地域とかかわっていますから、自分たちの知っている先輩たちがSBPなどで頑張っている様子を見ると、行ってみたいなど、先ほど町長から紹介のありました、来年は自分が舞台に立ちたいというような感じで、南勢校舎へ行きたいと南伊勢町の子どもたちが思ってもらえるよう、大人の皆さんが注目や働きかけをしていただくとうれしいと思います。いずれにしても、今後の南勢校舎のあり方なども、地元の皆さん

とよく協議をしながら進めていきたいと思ひます。

南伊勢町長

ありがとうございます。地元にとって本当に大切な県立高校ですので、頑張っているんな支援していただきたく思ひます。本当に今日はありがとうございます。

(3) 閉 会

知 事

皆さん、今日はどうもありがとうございました。小山町長もありがとうございました。

今日は、南伊勢町にとって大変大事な課題、道路の話、ポストサミットの話、そして、子どもたちの育つ環境、南勢校舎、議論させていただきました。すべて何でもできるということではないですが、間違いなく方向性は同じくしておりますので、同じ方向を向いて一緒になって連携して走って行って、そして、南伊勢町の皆さんに本当に県と連携して頑張っているよかったですなと思ってもらえるような県政を展開していきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

今日は、どうもありがとうございました。